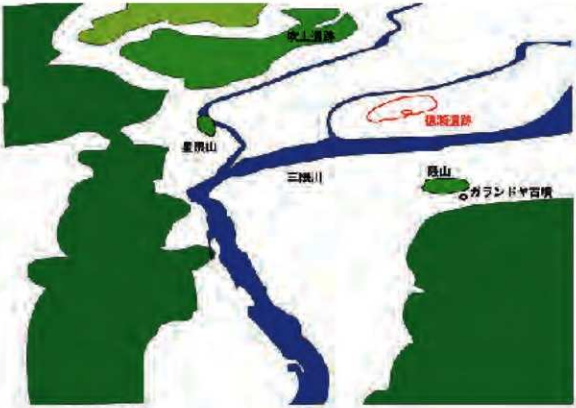
日田市埋蔵文化財調査報告書第71集

徳瀬遺跡Ⅱ

2006年

日田市教育委員会

徳瀬遺跡遠景（西から）



序　　文

徳瀬遺跡は、日田盆地中央を流れる庄手川と三隈川に挟まれた中洲に位置する遺跡で、弥生時代の遺跡として知られています。

この遺跡ではこれまでに大分県教育委員会と当委員会が４回の発掘調査を行い、弥生時代前期から古墳時代前期を中心とする資料が発掘され、市内でも大規模な弥生集落であることが判明しています。

今回報告します１次調査は徳瀬遺跡の存在が明らかとなった最初の調査でもあり、弥生時代や中世期の遺物が多く出土しています。

本書はこうした発掘調査の内容を整理し報告するもので、今後の文化財保護や地域の歴史、学術研究等に、ご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にご協力をいただきました土地所有者の皆様や関係者の方々に、心から厚くお礼を申し上げます。

平成18年３月

日田市教育委員会
教育長　諫　山　康　雄

例　　言

1．本書は、昭和59年度に日田市教育委員会が市費で実施した徳瀬遺跡の発掘調査報告書である。すでに当委員会が行った徳瀬遺跡D区（3次調査）報告書が刊行されているので、本報告は徳瀬遺跡Ⅱとして発行する

2．今回の調査地点は、調査中はA区と呼んでいたが、本書をもって1次調査地点とあらためる。

3．調査にあたっては、土地所有者である原田長尾、千原恒雄両氏のご協力をいただいた。

4．調査現場での実測は土居・小野・岩沢が、写真撮影は土居が行なった。

5．本書に掲載の遺物実測は土居のほか、鉄器を今田秀樹が行い、土器の一部は有限会社雅企画に委託したものを掲載した。また、遺構図並びに遺物の製図は中川照美（日田市調査補助員）が行い、一部は有限会社雅企画に委託したものを使用した。

6．本書の巻頭写真図版などに用いた航空写真は、平成9年度の3次調査の際に撮影委託した成果品を使用した。

7．出土遺物および図面、写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。

8．調査中には、高橋　徹（大分県教育委員会）、桑原幸則（現、佐賀県神崎町教育委員会）両氏に現地で助言をいただいた。

9．本書の執筆・編集は、土居が行なった。

日田市の位置

目　　次

Ⅰ　調査の経緯 …… 1
（1）これまでの調査経過 …… 1
（2）調査組織 …… 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 2
（1）遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 2
（2）これまでの調査概要 …… 3
Ⅲ　調査の内容 …… 4
（1）調査の概要 …… 4
（2）基本土層 …… 5
（3）1トレンチ …… 6
（4）2トレンチ …… 8
（5）3トレンチ …… 10
（6）4トレンチ …… 11
（7）5トレンチ …… 12
（8）6トレンチ …… 16
（9）表採遺物 …… 17
Ⅳ　まとめ …… 20

挿　図　目　次

第1図　周辺の遺跡分布図（1/25000）…… 2
第2図　調査区の位置図（1/5000）…… 3
第3図　トレンチ配置図（1/500）…… 4
第4図　基本土層図（1/20）…… 5
第5図　1トレンチ実測図①（1/30）…… 6
第6図　1トレンチ実測図②（1/30）…… 6
第7図　1トレンチ出土土器実測図（1/4）…… 7
第8図　2トレンチ実測図（1/30）…… 8
第9図　2トレンチ出土土器実測図（1/4・1/3）…… 9
第10図　2トレンチ出土鉄器実測図（1/2）…… 9
第11図　3トレンチ実測図（1/30）…… 10
第12図　3トレンチ出土土器実測図（1/4）…… 10
第13図　3トレンチ出土石製品実測図（1/4）…… 10
第14図　4トレンチ出土土器実測図（1/4）…… 11

第15図　4トレンチ実測図（1/30）…… 11
第16図　5トレンチ実測図（1/30）…… 13～14
第17図　5トレンチ出土土器実測図（1/4）…… 15
第18図　5トレンチ出土鉄器実測図（1/2）…… 15
第19図　6トレンチ実測図（1/30）…… 16
第20図　6トレンチ出土土器実測図（1/4）…… 17
第21図　出土石器実測図（1/2）…… 17
第22図　出土土製品実測図（1/2）…… 17
第23図　表採土器実測図①（1/4）…… 18
第24図　表採土器実測図②（1/4）…… 19

写真図版目次

巻頭写真図版　徳瀬遺跡遠景
写真図版１　調査区の空中写真
写真図版２　遺跡近景写真、調査区近景写真
写真図版３　１～２トレンチ
写真図版４　２～４トレンチ
写真図版５　５・６トレンチ
写真図版６　１～６トレンチ出土土器
写真図版７　表採遺物、トレンチ出土石器・鉄器・土製品・石製品

挿入写真目次

写真１　基本土層写真 …… 5
写真２　調査風景 …… 6
写真３　調査風景 …… 8
写真４　調査風景 …… 12

表　目　次

第１表　出土土器観察表① …… 21
第２表　出土土器観察表② …… 22
第３表　出土鉄器・石製品・石器・土製品観察表 …… 22

Ⅰ　調査の経緯

(1) これまでの調査経過

昭和59年５月10日、土地の所有者である原田長尾氏から畑を耕作中に土器が出土したとの通報が日田市立博物館にあり、担当者が現地に出向いてみると畑の中に弥生土器片が散乱し、傍らの墓地の周りには土器が山積みされていた。隣接する畑でも土器片が採集できたことから、付近一帯には弥生時代の遺跡が存在することがほぼ間違いないと判断した。その後、県教育委員会に連絡を行うと、発掘調査の必要があるとの指導をいただいた。

そこで市教育委員会では土地所有者にその旨を伝え発掘調査の了承をいただき、緊急に市単独費での発掘調査費の予算化を行い、同年の12月議会での議決を経て、12月3日より発掘調査を開始することになった。

調査は翌年の３月５日に完了し、３月31日には整理作業も終了したが、報告書の予算措置ができずに長い間未報告の状況が続いていた。このたび平成14年度からはじまった市費による発掘調査報告書作成事業の一環として報告をするものである。

なお、調査日誌より発掘調査の進行内容を簡単に記す。

昭和59年12月３日　１・2グリットの掘下げを始める。
　　12日　５グリットの掘下げを行う。
　　21日　２・４グリットともⅣ層まで掘下げる。
昭和60年１月10日　６グリットのⅣ層まで掘下げる。
　　２月14日　４トレンチを完掘する。
　　３月５日　器材を撤収し、全ての調査を完了する。

(2) 調査組織

発掘調査の関係者は、以下のとおりである。

昭和59年度（1986）／発掘調査・整理作業
　調 査 主 体　日田市教育委員会
　調査責任者　後藤　英彦（日田市教育委員会教育長兼日田市立博物館長）
　調 査 事 務　岩沢　光夫（日田市立博物館嘱託）
　調　査　員　土居　和幸（　　同　　臨時職員）調査担当
　作　業　員　大友ナツヨ・梶原フジコ・桜木一郎・樋口シトエ・樋口タケコ・小野信彦・
　　岩沢安見（別府大学生）

平成17年度（2005）／報告書作成
　調 査 主 体　日田市教育委員会
　調査責任者　諫山　康雄（日田市教育委員会教育長）
　総　　括　後藤　　清（　　同　　文化財保護課長）
　事　　務　高倉　隆人（　　同　　文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長）
　　伊藤　京子（　　同　　文化財保護課専門員）
　担　当　者　土居　和幸（　　同　　文化財保護課副主幹）

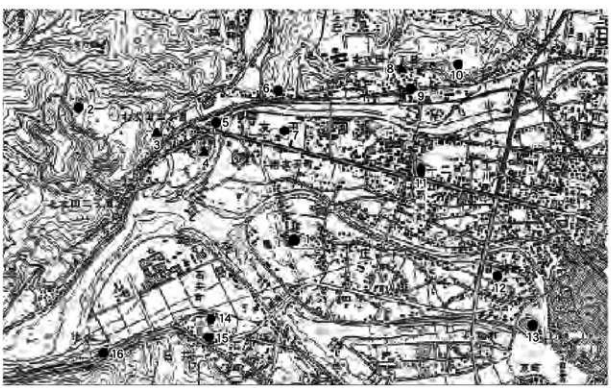
Ⅱ　遺跡の立地と環境

(1) 遺跡の位置と周辺の遺跡

徳瀬遺跡は日田市南友田町（大字友田字徳瀬）284-１ほかに所在する弥生時代遺跡で、盆地西部にあたる筑後川と庄手川に囲まれた中州西側に位置し、標高約78mを測る微高地上に立地する。周辺の遺跡には同じ中州地帯に村前遺跡（12）と日隈城跡（13）が存在し、前者は中世の集落跡が調査されており、後者は文禄３年（1594）に代官・宮木長二郎が築城した城跡として知られ、ここからは細線式獣帯鏡などが発見されるなど古式古墳の存在も指摘されている。

さらに、徳瀬遺跡北側の花月川沿いにも遺跡が分布しており、なかでも著名なのが吹上遺跡（10）で、これまで11回の調査が実施され弥生時代前期から古墳時代前期の大規模な集落跡が確認されている。特筆される６次調査では弥生中期の大型成人甕棺墓や木棺墓で構成される特定の墓域が発掘され、４・５号甕棺墓からは鉄器・青銅器・装身具などの副葬遺物が発見されている。この吹上台地や周辺には吹上・北友田（8）・星隈（4）・小谷口（3）といった横穴墓群が隣接するほか、６世紀後半頃の築造とされる三郎丸古墳（5）や鳥越古墳（6）をはじめ、縄文時代の穴原遺跡（2）、古墳時代中期の鍛冶工房址が発見された荻鶴遺跡（7）などの遺跡もある。

また筑後川を挟んで対岸には隈山古墳（14）、ガランドヤ古墳群（15）、津辻古墳（16）などの古墳が点在しており、なかでも古墳時代後期中頃～後半に築造されたガランドヤ１・２号墳は装飾古墳としても知られ、１号は赤・緑の顔料によって人物・馬・鳥・舟・同心円文など、２号は赤地の上に緑で騎馬人物や波状文様などが描かれている。



1 徳瀬遺跡　2 穴原遺跡　3 小谷口横穴墓群　4 星隈横穴墓群　5 三郎丸古墳　6 鳥越古墳　7 荻鶴遺跡　8 吹上・北友田横穴墓群
9 今泉遺跡　10 吹上遺跡　11 郷四郎遺跡　12 村前遺跡　13 日隈古墳　14 隈山古墳　15 ガランドヤ古墳群　16 津辻古墳

第１図　周辺の遺跡分布図（1/25,000）

(2) これまでの調査概要

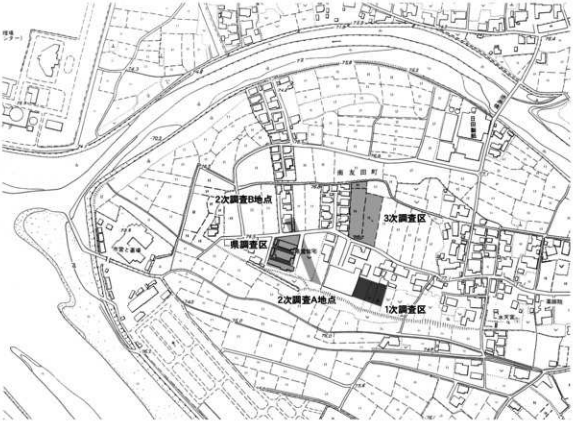
徳瀬遺跡での発掘調査は、第２図に示すようにこれまで4回実施されている。１次調査以外の内容を概観してみると、２次調査（A地点）では弥生時代前・中期の竪穴住居や貯蔵穴などと終末から古墳時代前期の竪穴住居・溝・箱式石棺墓・土壙墓が確認されている。[註1)] なかでも、箱式石棺墓1基からは位至三公鏡の破片が出土している。

また、２次調査区に隣接する県教委の調査区では、弥生時代前期後半から中期前半と後期後半から終末期に相当する二つの時期の竪穴や土坑、溝などが発掘されており、[註2)] 近接する２次調査（B地点）においては弥生時代中期の遺物包含層が調査されている。[註3)] さらに、３次調査では弥生時代後期の竪穴住居や中世の建物・墓なども検出されており、[註4)] この遺跡が弥生時代を中心として中世期にも集落が形成されていたことが判明している。

なお、こうした発掘調査や周辺の確認調査によって北側が３次調査区、西側が県教委調査区、南側は本報告の１次調査区までの、周辺より一段高くなっている場所が遺跡の境となっているようで、東側については調査例がなくはっきりとしないが、徳瀬橋付近で弥生土器が採集されていることから水天宮（酒落神社）付近までは広がるものと考えられる。従って、この徳瀬遺跡の範囲は東西約400m、南北150mと予想され、その面積は概ね６haと推定される。

註

1）土居和幸ほか編　「徳瀬遺跡Ｂ区」『平成5年度 日田市埋蔵文化財年報』 日田市教育委員会　1995年
2）稲村博文ほか編　『徳瀬遺跡』大分県文化財調査報告書第94集　大分県教育委員会　1996年
3）行時志郎編　「徳瀬遺跡Ｃ区」『平成7年度 日田市埋蔵文化財年報』 日田市教育委員会　1997年
4）吉田博嗣編　『徳瀬遺跡 第３次』日田市埋蔵文化財調査報告書第22集　日田市教育委員会　2000年



第２図　調査区の位置図（1/5,000）

Ⅲ　調査の内容

(1) 調査の概要（第３図）

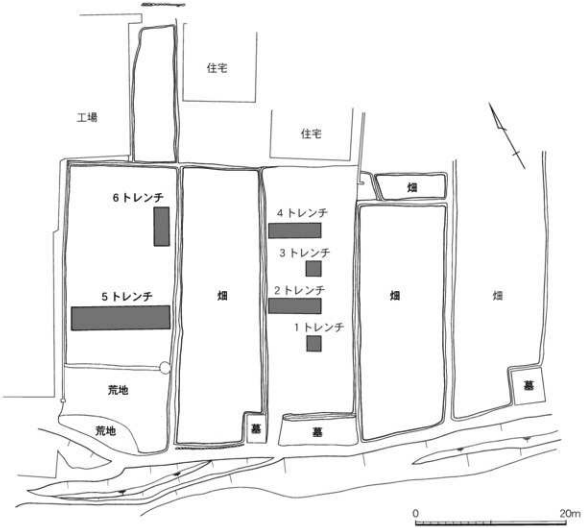
発掘調査はゴホウの作付け中に偶然土器が発見されたことに端を発したもので、時間や予算に制限もあり対象範囲全てを調査出来ないためトレンチ調査となり、２m×２mを２本、２m×５mを１本、２m×７mを２本、３m×13mを１本設定して進めた。

各試掘坑を掘下げた結果、砂層を中心とする堆積土中に遺物が含まれており、調査当初は土器や石器等を含む遺物包含層を想定していたが、掘下げるに従い場所によっては遺構の存在が明らかとなった。そこで、その後も遺構検出に努めたが明確な遺構ラインを把握することが出来ず、トレンチによっては遺物の平面図化やレベルの記入などといったの作業を行い調査を終了させた。

調査で検出した遺構は竪穴住居？１軒、溝？１条で、試掘坑出土の他に耕作中に発見され近くに山積みされていた土器などの表採品もあわせて報告する。調査面積は85㎡である。

なお、試掘坑の呼名は、本報告において以下のように変更する。

１グリット→１トレンチ　　１トレンチ→２トレンチ　　２グリット→３トレンチ
２トレンチ→４トレンチ　　３グリット→５トレンチ　　３トレンチ→６トレンチ



第３図　トレンチ配置図（1/500）

(2) 基本土層（第４図、挿入写真１）

調査区での基本堆積土層を確認するために遺構の存在する可能性が低く、また遺物の出土量も少ない３トレンチを選定して深掘りを行い、その東側壁を基本土層観察の対象とした。ここでは第４図（写真１）に示すように大きく６枚の土層の堆積状況を把握することができた。

なお、調査中の土層観察作業ではⅣ層を分層して注記していたが、１つの層として取り扱った方が適切と判断したため、本報告では一つの層として取り扱うこととする。

以下、各土層の説明を行う。

Ⅰ層　表土。約15㎝前後の堆積がみられた。現在の畑の耕作土にあたる。

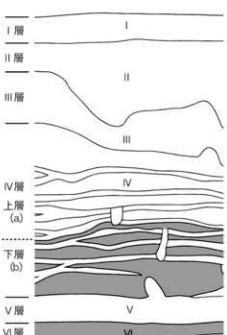
Ⅱ層　黒色土。10㎝から50㎝ほどの堆積がみられた。細かな砂粒を含む、軟質な土層である。トレンチによっては、遺物を含む場所もある。

Ⅲ層　黒褐色土。10㎝から40㎝ほどの堆積がみられた。砂を含み硬くしまっており、遺物を含んでいる。このⅢ層の堆積がみられない場所（トレンチ）もある。

Ⅳ層　砂質土。約90㎝前後の堆積がみられた。このⅣ層は大きく二つの層に分けることができる。上層（ａ）は砂を含む軟質の明褐色土と、砂をわずかに含む比較的硬くしまった茶褐色土が数枚にわたって交互に堆積をなしている。下層（ｂ）は粗い粒子の砂層と、砂を含む軟質の明褐色土が数枚にわたって交互に堆積をしている。この上・下層中には多くの遺物を含むが、他のトレンチではみられない場所もあり、堆積の厚さも異なっている。

Ⅴ層　明茶褐色土。約15㎝前後の堆積がみられた。粒子が細かく、粘性にとむ。遺物を含む層であるが、場所によっては遺物が認められない場所もある。

Ⅵ層　砂質土。20㎝＋α。Ⅳ層に類似する。無遺物層。



第４図　基本土層図（1/20）

写真１）基本土層写真

(3) 1トレンチ（第5～7・22図、写真図版3・6）

1トレンチは5枚ある畑の真中の最も南側に設定した2m×2mの試掘坑で、一段下がる縁までの距離は13mの場所にあたる。このトレンチでは第5・6図のような遺物等の出土をみた。第5図は基本土層のⅢ層中での遺物の出土状況を示したもので、頭大の河原石に混じって土器がまとまった状態で発見された。遺物は甕・壺・高坏・器台などがあり、完形品に近い大きな破片が目立ち、接合した土器片もある。第6図は先のⅢ層下において出土したⅢ層下面～Ⅳ層上面の遺物の分布状況を示したもので、Ⅲ層に比べると土器の量は少ない。

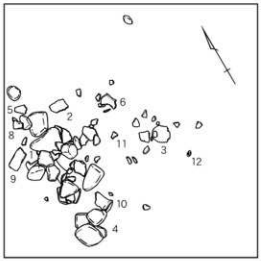
調査段階ではこのⅢ層とⅢ層下～Ⅳ層上面では時間差があると考えていたが、その後の整理作業において両層から出土した土器（高坏）が接合したことから、2つの層として分ける必要はなさそうである。遺構プランは検出できなかった。

以下、主な出土遺物を紹介する。

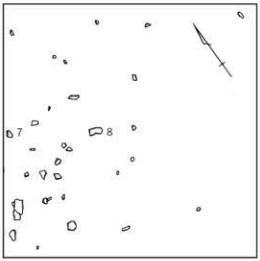
出土遺物（第7・22図、写真図版6）

1～4は甕である。1は胴部下半を欠くが、残り具合から長胴甕であろう。口縁部は「く」字状に外反する。内外面とも調整はハケ仕上げ。口径は22.2cmを測る。Ⅲ層出土。2は小型の甕で、口縁部と底部を欠く。胴部は丸味がなく直線的で、外面にはタタキ痕が残る。胎土に金雲母を含む。Ⅲ層出土。3は長胴甕の底部であろう。底部は丸味を帯び、内外面ともにハケ仕上げ。底径4cmを測る。4は小型の甕である。口縁部は短く、「く」字状に外反し、底部は

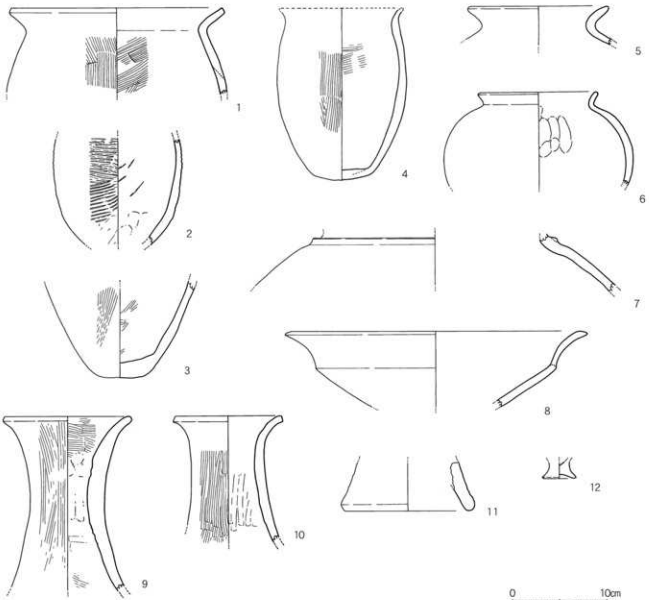
写真2）調査風景



第5図　1トレンチ実測図①（1/30）



第6図　1トレンチ実測図②（1/30）



第７図　１トレンチ出土土器実測図（1/4）

丸味を帯びている。調整は内面は横ハケ後ナデ、外面は縦ハケ後ナデ。外面には煤が付着している。推定での高さは17.8㎝、復元口径は13㎝、底径６㎝。Ⅲ層中の出土であるが、４トレンチⅣ層出土の土器片と接合する。５～７は壺である。５は口縁部が短く、「く」の字状に外反する。復元口径14.4㎝。Ⅲ層出土。６は口縁部が短く外反し、胴部は丸みを帯びている。口径12.8㎝、胴部最大径20㎝。Ⅲ層出土。７は頸部に一条の三角突帯が巡る。Ⅲ層下層～Ⅳ層上部出土。８は高坏の坏部である。口縁部はほぼ直線的に外反し、上半部は内湾して外に開く。口縁端部はやや厚みを有する。復原口径32㎝。9～11は器台である。９・10はいずれも脚部を欠いており、外面はハケ、内面には工具によるナデによる調整痕が残る。９の口径は13.2㎝、10の口径は11.3㎝。Ⅲ層出土。11は脚部である。底径は14.2㎝。Ⅲ層出土。12はミニチュア土器である。甕か壺の底部であろう。底径3.8㎝を測る。Ⅲ層出土。このほか一括品に第22図２の土錘がある。第７図に示した土器は弥生時代後期後半から終末頃に比定されよう。

(4) 2トレンチ

（第8～10図、写真図版3・4・6・7）

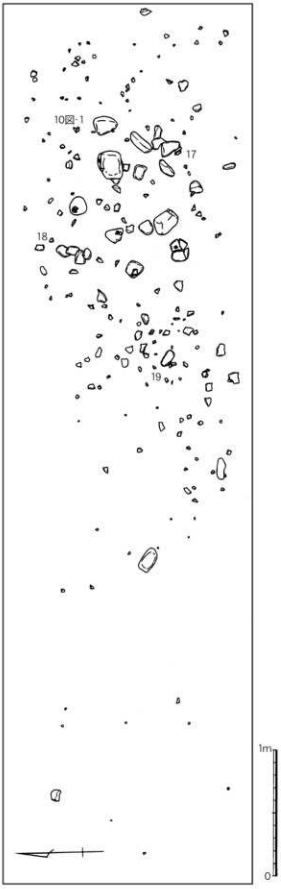
2トレンチは1トレンチの北3mの場所に東西方向に設定した2m×7mの試掘坑である。このトレンチでは第8図に示すような遺物等の出土をみた。第8図は基本土層のⅣ層中での遺物の分布状況で、頭大の河原石に混じって土器がまとまった状態で発見され、遺物には甕などがある。図示はしていないがⅢ層においてもⅣ層と同様な在り方が認められ、1トレンチと同じように調査段階ではこのⅢ層とⅣ層を包含層として捉え時間差があるものと考えていたが、1トレンチでの状況から判断して2つの層として分ける必要はないものと思われる。ただし、時期の異なる遺物も散見されることから遺構のプランは検出することが出来なかったが、本来遺構が存在し、遺構に伴う遺物が混じり合っていることが十分に考えられる。

以下、主な出土遺物を紹介する。

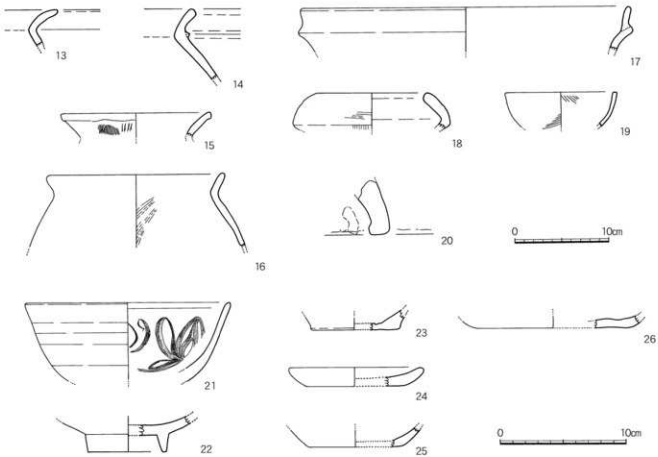
出土遺物（第9・10図、写真図版6・7）

13～16は甕である。13は甕の口縁部で、「く」字状に外反する。Ⅲ層一括。14も甕の口縁部で、短い口縁が「く」字状に外反し、頭部には一条の三角突帯が巡る。調整は内面が横ハケ後ナデ、外面が縦ハケ後ナデ仕上げ。Ⅲ層一括。15も甕の口縁部で、「く」字状に外反する。Ⅲ層一括。

写真3）調査風景

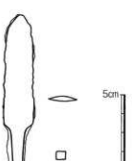


第8図　2トレンチ実測図（1/30）



第９図　２トレンチ出土土器実測図（1/4・1/3）

16の甕は胴部下半を欠くが、残り具合から長胴甕であろう。口縁部は短く、「く」字状に外反する。口径は18.4cm。Ⅲ層一括。17・18は壺である。17は山陰系の壺で、外反した口縁は内湾し短く直立気味に外反する。復元口径35cm。Ⅳ層出土。18は袋状口縁壺の口縁部で、逆「く」字状に内湾する。復元口径11cm。Ⅳ層出土。19は埦であろうか。口縁端部は厚みを有す。内外面ともにハケ仕上げ。胎土に金雲母を含む。復元口径11.9。Ⅳ層出土。20は器台の脚部である。Ⅲ層出土。21は龍泉窯系青磁碗で高台を欠く。内面には蓮華文が片彫りされている。復元口径16.1cm。Ⅱ層一括。22は青磁碗の高台。復元底径6.2cm。Ⅲ層出土。23～26は土師皿で、Ⅰ・Ⅱ層一括。23は口縁部を欠く。内底面には刷毛筵痕、外面底部には糸切り痕が残る。復元底径７cm。24は底部の一部を欠く。調整は不明。復元口径10.5cm、復元底径7.8cm。25は口縁部と底部の一部を欠く。外面底部には糸切り痕が残る。復元底径7.2cm。26は口縁部と底部の一部を欠く。内底面には刷毛筵痕を指でナデ消し、外面底部には糸切り痕が残る。復元底径12cm。第10図１は鉄鏃である。Ⅲ層出土。13～20の土器は弥生時代後期から古墳時代初めの時間幅の中で捉えられそうで、21は12～13世紀頃。



第10図　２トレンチ出土鉄器実測図（1/2）

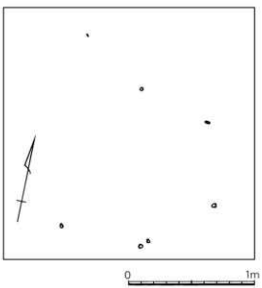
(5) 3トレンチ（第11～13図、写真図版4・6・7）

3トレンチは2トレンチの北3mの場所に設定した2m×2mの試掘坑である。このトレンチでは、第11図のような遺物等の出土をみた。第11図は基本土層のⅣ層上面での遺物の出土状況を示したもので、ここでは土器片が数点と小礫をわずかに検出したにとどまった。南側の1・2トレンチとは明らかに遺物の出方が大きく異なっている。また隣の2トレンチでは上層にあたるⅢ層中からの遺物の出土も多かったが、この3トレンチではⅢ層中からの遺物の出土量は極端に少なかった。なお、このトレンチにおいても明確な遺構プランを検出することは出来なかった。

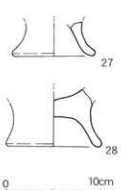
以下、主な出土遺物を紹介する。

出土遺物（第12・13図、写真図版6・7）

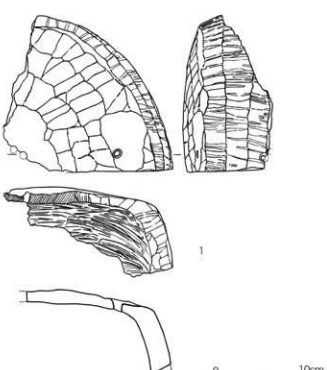
図示できる土器を第12図に示した。27は小型の甕の脚部と考えられ、脚部は「ハ」の状に外反する。調整は磨耗が著しく不明。底径8.8㎝を測る。Ⅲ層出土。28も小型の甕で、底部から上半を欠く。脚部は「ハ」の状に外反し、調整は内外面ナデ仕上げ。底径9.6㎝。Ⅳ層出土。第13図の1については滑石製石鍋と呼ばれるものであるが、底部や体部などに穿孔が5ヶ所認められ、また割れ口の断面を新たに磨きなおしていることから転用品と考えられる。用途は定かでない。底は平底をなしており、体部内外面とも明瞭に削り痕跡が残っている。外面には煤が付着している。Ⅲ層出土。28は弥生時代後期頃の土器であろう。



第11図　3トレンチ実測図（1/30）



第12図　3トレンチ出土土器実測図（1/4）



第13図　3トレンチ出土石製品実測図（1/4）

(6) 4トレンチ

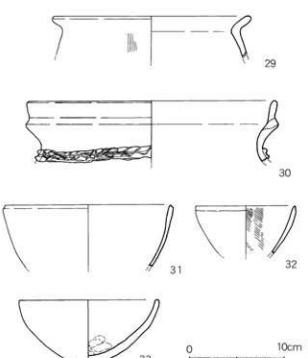
（第14・15・21図、写真図版4・6・7）

4トレンチは3トレンチの北3mの場所に東西方向に設定した2m×7mの試掘坑である。このトレンチでの状況は、第15図のような遺物等の出土をみた。第15図は基本土層のⅣ層上面での遺物の分布状況を示したもので、遺物はトレンチの西側に集中するように出土した。ここでは1・2トレンチのような河原石は伴っていないが、土器のまとまった位置には粘土ブロック（第15図中の網部分）の塊が認められた。また上層にあたるⅢ層では3トレンチと同様に遺物の出土量は少なかった。なお、ここでも遺構プランを確認することは出来なかった。

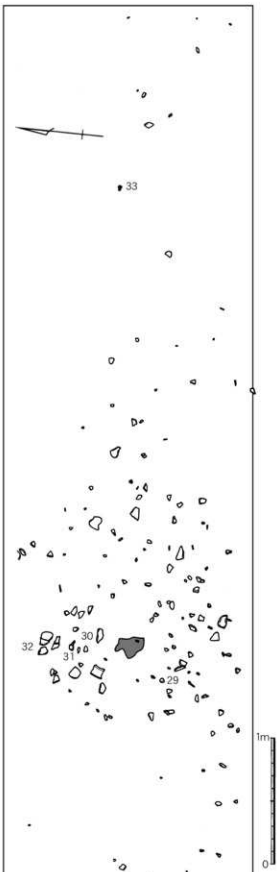
以下、主な出土遺物を紹介する。

出土遺物（第14・21図、写真図版6・7）

29は甕である。胴部から下半を欠くが、残り具合から長胴甕であろう。口縁部は短く、「く」の状に外反する。調整は外面に縦ハケが残る。復元口径21cmを測る。Ⅳ層出土。30は山陰系の壺で、外反した口縁は内湾し短く直立気味に外反する。頸部に刻みを入



第14図　4トレンチ出土土器実測図（1/4）



第15図　4トレンチ実測図（1/30）

れた粘土帯を巡らす。２トレンチの土器（17）と類似しており、同一個体の可能性もある。復元口径25.8cmを測る。Ⅳ層出土。31～33は埦である。31は口縁端部が厚みをもち立ち上がる。復元口径17.4cmを測る。Ⅳ層出土。32は小型の碗で、口縁部は厚みがある。復元口径10.4cmを測る。Ⅳ層出土。33の碗は口縁部が真っ直ぐ立ち上がり、底部は丸底をなす。器高７cm、口径14.8cm。Ⅳ層出土。第20図の４は石包丁である。大半は欠損する。輝緑凝灰岩製。トレンチ一括。ここでの土器も弥生時代後期を主体とするが、30の壺は終末頃のものであろう。

(7) ５トレンチ（第16～18・21図、写真図版５～７）

５トレンチは５つある畑の西側に東西方向に設定した３m×13mの試掘坑である。このトレンチでの状況は、第16図のような遺物等の出土をみた。第16図は基本土層のⅣ層～Ⅴ層での遺物の出土状況で、トレンチの西側隅ではⅣ層中に遺構のラインを確認した。埋土は黒色の砂質土で、竪穴住居の可能性もあったが遺物の出方や掘方がしっかりしていないことから溝として捉えておきたい。図でわかるように１号溝付近には頭大の河原石や土器がまとまった状態で分布しており、またラインの外側にも遺物がみられることから掘方はⅣ層上面からかも知れない。溝の下端については掘下げたが確認できなかった。溝からの遺物には甕などがあり、大きな破片も目立つ。またこのトレンチの東側では溝と同じレベルにおいて遺物のまとまりが認められたが、遺構のライン検出には至っていない。

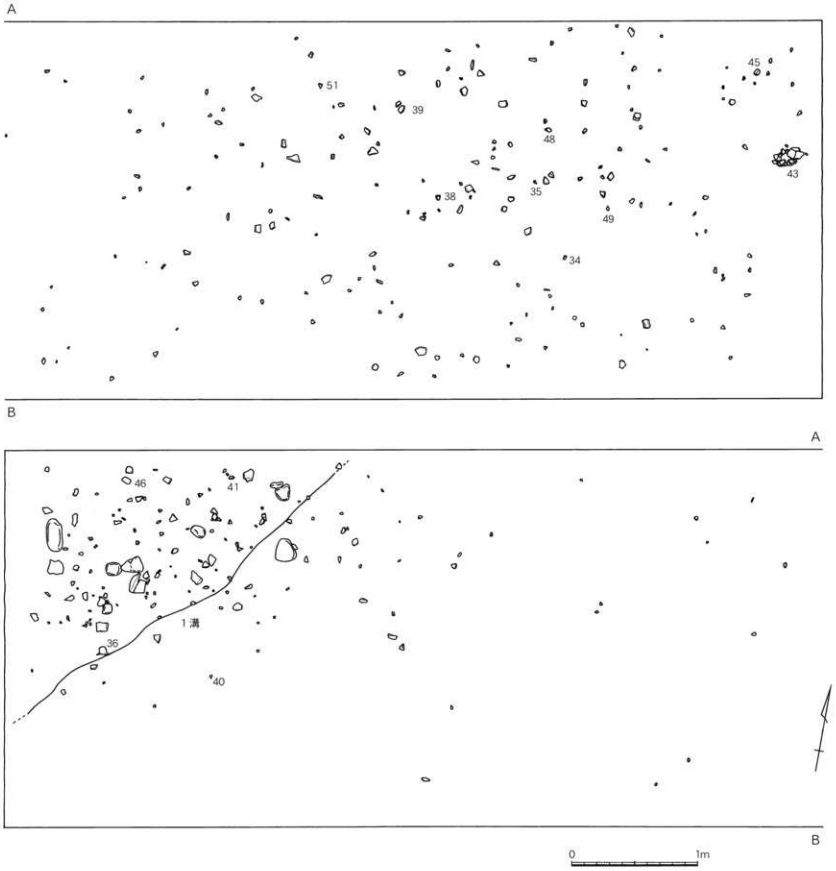
以下、主な出土遺物を紹介する。

出土遺物（第17・18・21図、写真図版６・７）

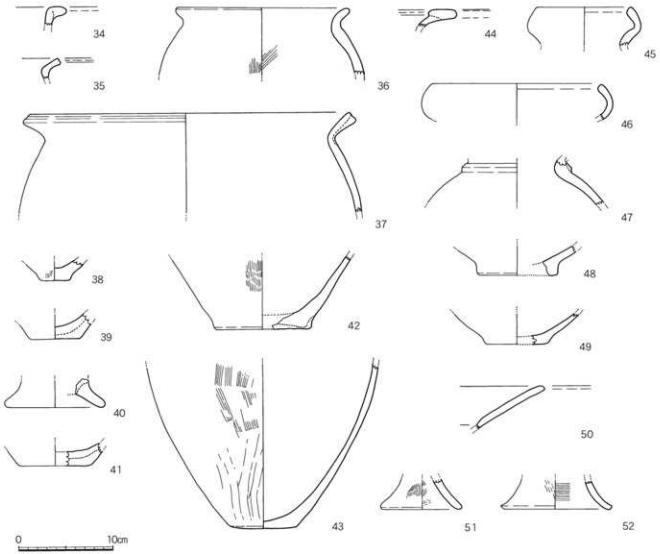
まず、１号溝から出土した遺物には第17図34～37・41・42・46・47・52、第18図１、第20図２がある。34は口縁部が逆Ｌ字状をなす。Ⅴ層出土。35は口縁部が「く」の字状をなし、口縁端部は中窪みさせている。Ⅴ層出土。いずれも中期前半。36は短い口縁部が「く」の字状に外反する。Ⅳ層出土。37は胴部下半を欠く。口縁部は「く」の字状に外反し、肥厚する。口縁端部は中窪みする。復元口径34.4cm。41は壺の底部であろうか。42は甕の底部であろう。平底をなす。46は複合口縁壺の口縁部で、丸く内湾する。復元口径17.8cm。47は口縁部と頸部下半を欠く。頸部に一条の三角突帯が巡る。52は器台で、復元底径11.6cm。Ⅴ層出土。第18図1は鉄鏨であろう。はっきりとはしないが、図面上部が刃部と思われる。第21図2は砥石である。五面に擦り痕が残る。砂岩製。これらの土器のうち流れ込みとみられる34・35を除くと、１号溝の時期は後期前半代と考えることができる。

写真４）作業風景

このほかの遺物は39・40・43が甕である。39は平底をなす。復元底径５cm。

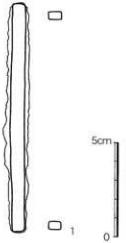


第16図　5トレンチ実測図（1/30）



第17図　5トレンチ出土土器実測図（1/4）

Ⅳ層出土。40は底部が台状をなす。Ⅳ層出土。復元底径10.6cm。43は底部がやや丸味を帯びる。底径7cm。Ⅳ層出土。38・44・45・48・49は壺である。38は突レンズ状の底部。底径3.1cm。Ⅳ層出土。44は口縁部が鋤先状を呈する。内面への突出は少ない。Ⅲ層出土。45は複合口縁壺である。口縁部は丸く内湾する。復元口径10cm。Ⅳ層出土。48・49とも突レンズ状の底部をなす。48は胎土に金雲母を含む。いずれもⅣ層出土。50・51は高坏。50は口縁部が直線的に外反する。金雲母を含む。Ⅱ層出土。51は高坏の脚部。復元底径8.2cm。Ⅴ層出土。第21図1は二次加工剥片で、ポジ面側縁部に加工が施されている。Ⅴ層出土。第21図3は石包丁で結晶片岩製。Ⅲ層出土。5は砥石で砂岩製。Ⅳ層出土。44は中期初め、45は後期、50は後期終末～古墳時代初め頃に比定される。



第18図　5トレンチ出土鉄器実測図（1/2）

(8) 6トレンチ（第19・20図、写真図版5～7）

6トレンチは5トレンチの北に南北方向に設定した2m×5mの試掘坑である。このトレンチでの状況は、第19図のような遺物等の出土をみた。第16図は基本土層のⅣ層～Ⅴ層での遺物の出土状況で、トレンチの北側において焼土と炭の広がりを確認した。この焼土と炭の近くには40cm大の台石や土器の集中が認められたので、この場所が竪穴住居と判断した。調査ではそのプランや柱穴などの検出作業を行ったが確認するにはいたらなかった。また、他の遺構プランについても検出することが出来なかった。

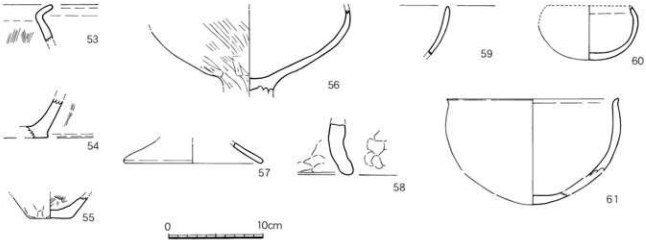
以下、主な出土遺物を紹介する。

出土遺物（第20図、写真図版6・7）

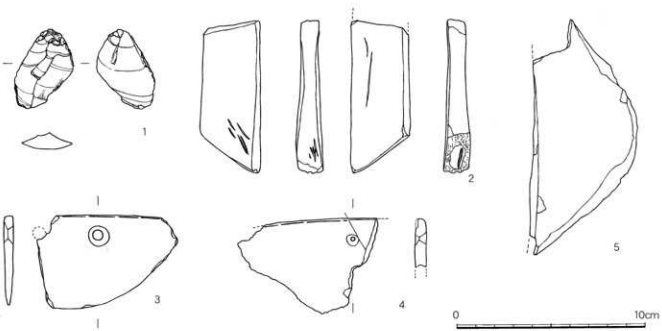
1号竪穴住居に確実に伴うといえる遺物は焼土と炭の上面から出土した2点であるが、加えてその位置関係から推定される遺物は53・55・56・58・60・61である。53は短い口縁部が「く」の字状に外反する。Ⅳ層出土。55は壺の底部であろう。外面には指圧痕、内面にはハケが残る。Ⅳ層出土。復元底径4.4cmを測る。56は高坏で、口縁部と脚部を欠く。坏部は大きく内湾する。Ⅳ層出土。外面にハケを残す。58は器台である。厚みがあり、指押えの痕跡を残す。Ⅳ層出土。60・61は塊あるいは鉢である。60の塊は口縁端部を欠く。胴部は内湾し、底部も丸く仕上げている。Ⅲ層出土。61の鉢は大型で、短い口縁部が外反する。胴部はわずかに内湾気味に立ち上がり、底部は丸く仕上げている。外面には2次焼成を受けた跡がみられる。復元器高11.2cm、復元口径18.2cmを測る。これらの土器が伴う遺物とすれば、1号竪穴住居の時期は概ね後期後半から末頃と推定される。

このほかの遺物としては、54が平底をなす甕の底部である。Ⅰ・Ⅱ層一括。58は高坏の脚部である。復元底径14.3cmを測る。Ⅳ層出土。59は塊である。胴部が内湾気味に立ち上がり口縁端部が垂直に立ち上がる。Ⅳ層出土。

第19図　6トレンチ実測図（1/30）



第20図　6トレンチ出土土器実測図（1/4）

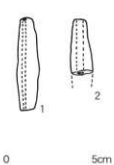


第21図　出土石器実測図（1/2）

(9) 表採遺物（第22～24図、写真図版７）

調査前に山積みとなっていた遺物の中から主な遺物を紹介する。

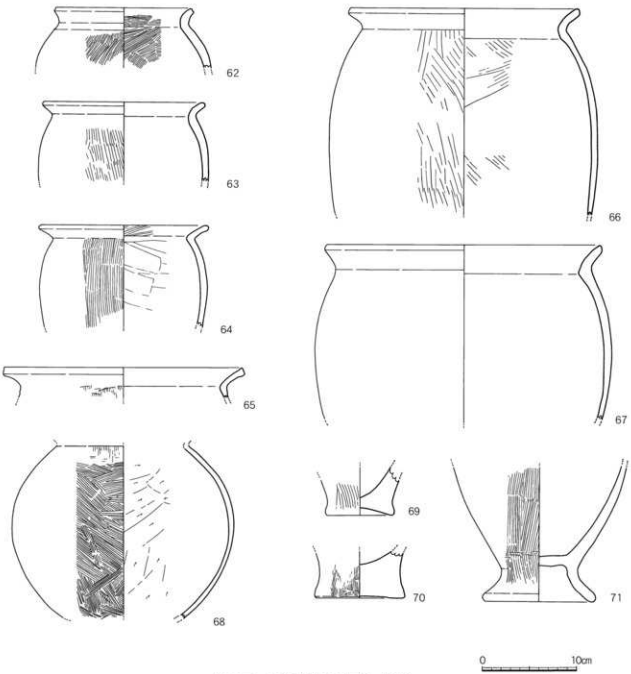
62～71・82は甕である。65は跳ね上げ口縁の甕である。復元口径25.2cmを測る。63・66・67は胴部下半を欠くが長胴甕であろう。復元口径は63が16.8cm、66が24cm、67が28.8cm。64・68は共に内面にヘラ削りが施されている。64は在地の長胴甕である。復元口径17.6cmを測る。68は胴部が球形を呈する布留式の甕。69・70は上げ底をなす底部である。復元口径は69が6.9cm、70が9.2cmを測る。71は脚付の長胴甕である。底径11.6cm。82はわずかに上げ底をなす復元底径10cm、残存高33.6cmを測る甕である。大きさからみて甕棺として使われた可能性もある。72～75は壺である。72は袋状口縁壺である。復元口径は8.6cm



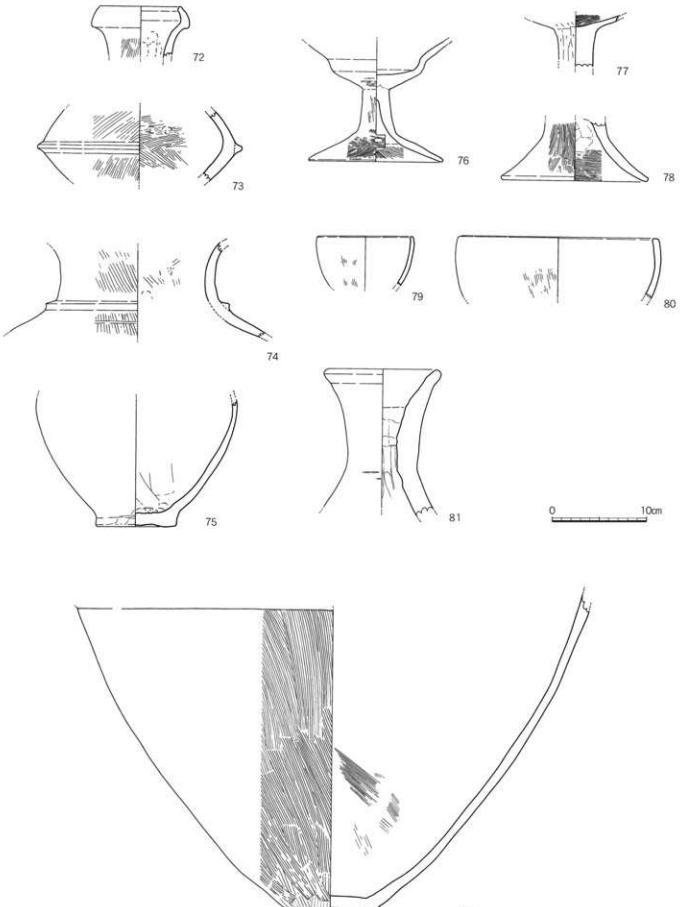
第22図　出土土製品
実測図（1/2）

を測る。73は胴部が幅広で、一条の「コ」の字状突帯を巡らす。74は頸部に一条の三角突帯を巡らす。75は厚みのある平底の底部で、底には指押えの痕跡が残る。底径8㎝。76～78は高坏である。76は口縁部を欠く。脚部には4つの穿孔を施す。底径14㎝を測る。畿内系の高坏。77は口縁部上半と脚部下半を欠く。78は復元底径15.2㎝を測る。79・80は埦である。共に胴部はわずかに内湾する。79の口縁端部は丸く仕上げる。復元口径は79が9.7㎝、80が21.2㎝を測る。81は器台である。復元口径11.6㎝を測る。第22図1は土錘である。

これらの土器は表面採集品ではあるがその特徴から、69・70は弥生時代前期末から中期初め、65・82は中期、62・63・66・67・71～74は後期後半代、64・68・76は弥生時代終末から古墳時代初め頃に比定されよう。



第23図　表採土器実測図①（1/4）



第24図　表採土器実測図②（1/4）

Ⅳ　まとめ

今回のトレンチ調査では基本土層でまとめたように砂質層の堆積が顕著にみられた。このことは遺跡が盆地のほぼ中央に位置し、河川の氾濫をとくに受け易いという立地環境に起因していることは容易に想像できる。その後の周辺調査（市教委2・3次調査、県教委調査）では比較的遺構が確認できている状況からすれば、今回の1次調査区は遺跡の中でも高い場所にあたり、洪水の影響によってその堆積度合いが増した結果ということになろう。

さて、調査では溝と竪穴住居と推定される遺構を確認した。溝については弥生時代後期前半代、竪穴住居は弥生時代後期後半から末頃の時期とみられる。こうした時期の遺構は3次調査や県教委調査でも確認がなされており、なかでも溝については規模等がはっきりしない部分もあるが、遺跡を横切るように走っていると目される点は、県教委調査区でも確認され環濠集落の一部と推定されている溝（ＳＤ1、ＳＤ2）との関係が注目されるところである。

これらの遺構のほかにも多くの遺物が出土し、また採集されており、こうした表採品を含めた土器の主体となっているのは板付Ⅱ式や城ノ越式並行の弥生時代前期末から中期初め頃、須玖式の中期代、そして後期前半から末頃に布留式甕の存在を加えた古墳時代前期頃までということになろう。このほか図示はしていないが縄文時代晩期の浅鉢も採集され、また12～13世紀の青磁碗もみられることから周辺調査での調査成果ともあわせて考えると、この遺跡は概して弥生時代前期から古墳時代前期の集落が存在し、縄文時代晩期や中世期にも集落が形成されていたものと理解される。

発掘調査から20年以上経ってようやく報告ができることになった。今後の徳瀬遺跡の内容把握のための基礎資料となれば幸いである。

（参考文献）

土居和幸ほか編　「徳瀬遺跡Ｂ区」『平成5年度 日田市埋蔵文化財年報』　日田市教育委員会　1995年

稲村博文ほか編　『徳瀬遺跡』大分県文化財調査報告書第94集　大分県教育委員会　1996年

行時志郎編　「徳瀬遺跡Ｃ区」『平成7年度 日田市埋蔵文化財年報』　日田市教育委員会　1997年

吉田博嗣編　『徳瀬遺跡 第3次』日田市埋蔵文化財調査報告書第22集　日田市教育委員会　2000年

（追記）

平成18年１月22日、平成14年度に埋蔵文化財係長を務められ、その後も同じ職場で共に働いてきた田中伸幸氏が永眠された。埋蔵文化財係長時代に未刊であった遺跡発掘調査報告書の数に驚き、世に出ない遺跡の記録を少しでもまとめられるようにとご尽力いただき、翌年度から市費を投じての埋蔵文化財報告書作成事業が始まった。この報告書はその６冊目にあたる。

尊敬すべき係長も１年３ヶ月もの長く苦しい闘病生活を余儀なくされたが病魔には勝てず、享年47才という若さで旅立たれた。生前のご指導に感謝を申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。　　合 掌

第１表　出土土器観察表①

挿図番号	区名	遺構名	種別	器種	法量				調整		胎土	焼成	色調		備考
					口径	胴部径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第７図-1	１Ｔ	Ⅲ層	弥生	甕	(22.2)	－	－	(9.1)	ハケ	ハケ	ＡＢＣＤＥＨ	良	暗茶褐色	暗茶褐色	
第７図-2	１Ｔ	Ⅲ層	弥生	甕	－	－	－	(11.2)	タタキ	ナデ	ＡＢＣＧ	良	黄橙色	灰黄褐色	
第７図-3	１Ｔ	Ⅲ層	弥生	甕	－	－	4.0	(9.7)	ハケ	ハケ	ＡＢＣＤＥＨ	良	暗茶褐色	暗茶褐色	
第７図-4	１Ｔ	Ⅲ層	弥生	甕	－	13.5	6.0	(17.8)	ハケ	ハケ	ＡＢＣＤＨ	良	明灰茶褐色	明灰茶褐色	4Tの土器と接合
第７図-5	１Ｔ	Ⅲ層	弥生	壺	(14.4)	－	－	(4.2)	ナデ	ナデ	ＡＢＣＤＨ	良	明褐色	明褐色	
第７図-6	１Ｔ	Ⅲ層	弥生	壺	(12.8)	(20.0)	－	(10.1)	ナデ	ナデ	ＡＢＣＤＨ	良	暗褐色	暗褐色	
第７図-7	１Ｔ	Ⅲ～Ⅳ層	弥生	壺	－	－	－	(5.4)	ナデ	ナデ	ＡＢＣＤＥＨ	良	黒褐色	明黄褐色	
第７図-8	１Ｔ	Ⅲ層	弥生	高坏	(32.0)	－	－	(7.9)	ナデ	ナデ	ＡＢＣＤＥＨ	良	白黄褐色	白黄褐色	
第７図-9	１Ｔ	Ⅲ層	弥生	器台	(13.2)	－	－	(18.4)	ハケ	ハケ	ＡＣＥ	良	黄橙色	黄橙色	
第７図-10	１Ｔ	Ⅲ層	弥生	器台	11.3	－	－	(13.4)	ハケ	ナデ	ＡＣＤＥ	良	黄褐色	灰黄褐色	
第７図-11	１Ｔ	Ⅲ層	弥生	器台	－	－	(14.2)	(5.2)	ナデ	ナデ	ＡＢＣＤＥＨ	良	明茶褐色	明茶褐色	
第７図-12	１Ｔ	Ⅲ層	弥生	ミニ	－	－	(3.8)	(1.8)	指押え	指押え	ＡＢＣＤＨ	良	黄褐色	黄褐色	
第９図-13	2Ｔ	Ⅲ層	弥生	甕	－	－	－	(3.9)	ナデ	ハケ	ＡＢＣＤＥＨ	良	明茶褐色	明茶褐色	
第９図-14	2Ｔ	Ⅲ層	弥生	甕	－	－	－	(7.5)	ハケ	ハケ	ＡＢＣＤＨ	良	明茶褐色	明茶褐色	
第９図-15	2Ｔ	Ⅲ層	弥生	甕	(15.4)	－	－	(2.7)	ハケ	ハケ	ＡＢＣＤＥＨ	良	明茶褐色	明茶褐色	
第９図-16	2Ｔ	Ⅲ層	弥生	甕	(18.4)	－	－	(7.7)	ナデ	ナデ	ＡＢＣＤＥＨ	良	黄褐色	黄褐色	
第９図-17	2Ｔ	Ⅳ層	弥生	壺	(35.0)	－	－	(4.8)	ハケ	ナデ	ＡＢＣＤＥＨ	良	暗灰褐色	暗灰褐色	
第９図-18	2Ｔ	Ⅳ層	弥生	壺	(11.0)	－	－	(3.9)	ハケ	ナデ	ＡＢＣＤＥＨ	良	明褐色	明褐色	
第９図-19	2Ｔ	Ⅳ層	弥生	甕	(11.9)	－	－	(3.7)	ハケ	ハケ	ＡＢＤＥＧＨ	良	明黄褐色	明黄褐色	
第９図-20	2Ｔ	Ⅲ層	弥生	器台	－	－	－	(5.7)	指押え	指押え	ＡＢＣＤＥＨ	良	明黄褐色	明黄褐色	
第９図-21	2Ｔ	Ⅱ層	青磁	碗	(16.1)	－	－	(6.3)	－	－	－	良	淡緑色	淡緑色	
第９図-22	2Ｔ	Ⅲ層	青磁	碗	－	－	(6.2)	(2.8)	－	－	－	良	淡緑色	淡緑色	
第９図-23	2Ｔ	Ⅰ・Ⅱ層	土師	皿	－	－	(7.0)	(1.1)	？	？	ＡＢＤＨ	良	淡褐色	淡褐色	
第９図-24	2Ｔ	Ⅰ・Ⅱ層	土師	皿	(10.5)	－	(7.8)	(1.5)	？	？	ＡＢＣＨ	良	淡赤褐色	淡赤褐色	
第９図-25	2Ｔ	Ⅰ・Ⅱ層	土師	皿	－	－	(7.2)	(1.3)	？	ナデ	ＡＢＤＨ	良	淡褐色	淡褐色	
第９図-26	2Ｔ	Ⅰ・Ⅱ層	土師	皿	－	－	(12.0)	(1.0)	ナデ	？	ＡＢＣＤＥＨ	良	淡褐色	淡褐色	
第12図-27	3Ｔ	Ⅲ層	弥生	甕	－	－	(8.8)	(3.6)	？	？	ＡＢＣＤＨ	良	暗黄褐色	暗黄褐色	
第12図-28	3Ｔ	Ⅲ層	弥生	壺	－	－	9.6	(6.0)	ナデ	ナデ	ＡＢＣＨ	良	明橙褐色	暗黄褐色	
第14図-29	4Ｔ	Ⅳ層	弥生	甕	(21.0)	－	－	(4.5)	ハケ	ナデ	ＡＢＣＤＥＨ	良	明茶褐色	明茶褐色	
第14図-30	4Ｔ	Ⅳ層	弥生	壺	(25.8)	－	－	(6.6)	ナデ	ナデ	ＡＢＣＤＥＨ	良	明灰褐色	明灰褐色	
第14図-31	4Ｔ	Ⅳ層	弥生	壺	(17.4)	－	－	(6.5)	ナデ？	ナデ？	ＡＢＣＤＥＨ	良	明黄褐色	明黄褐色	
第14図-32	4Ｔ	Ⅳ層	弥生	甕	(10.4)	－	－	(5.1)	ナデ	ハケ	ＡＢＤＥＧＨ	良	黄褐色	黄褐色	
第14図-33	4Ｔ	Ⅳ層	弥生	甕	14.8	－	－	7.0	ナデ	ナデ	ＡＢＣＤＥＨ	良	明茶褐色	灰褐色	
第17図-34	5Ｔ	1号溝	弥生	甕	－	－	－	(2.1)	ハケ	ナデ	ＡＢＤＥＨ	良	明褐色	明褐色	
第17図-35	5Ｔ	1号溝	弥生	甕	－	－	－	(2.2)	ナデ	ナデ	ＢＣＤＨ	良	明橙褐色	明橙褐色	
第17図-36	5Ｔ	1号溝	弥生	甕	(18.2)	－	－	(7.2)	ハケ	ハケ	ＡＢＣＤＥＨ	良	明灰褐色	明灰褐色	
第17図-37	5Ｔ	1号溝	弥生	甕	(34.4)	－	－	(10.5)	ハケ	ハケ	ＡＢＣＤＨ	良	明褐色	白黄褐色	
第17図-38	5Ｔ	Ⅳ層	弥生	壺	－	－	(3.1)	(2.2)	ハケ	ナデ	ＡＢＣＥＨ	良	明黄褐色	明褐色	
第17図-39	5Ｔ	Ⅳ層	弥生	甕	－	－	(2.7)	(5.0)	ハケ	ナデ	ＡＢＣＤＨ	不良	明黄褐色	黒褐色	
第17図-40	5Ｔ	Ⅳ層	弥生	甕	－	－	(10.6)	(2.8)	？	？	ＡＢＣＤＥＨ	良	赤褐色	赤褐色	
第17図-41	5Ｔ	1号溝	弥生	壺	－	－	(7.9)	(2.5)	ナデ	ハケ	ＡＢＣＤＥＨ	良	暗茶褐色	暗茶褐色	
第17図-42	5Ｔ	1号溝	弥生	甕	－	－	(10.4)	(7.5)	ハケ	ナデ	ＡＢＣＤＥＨ	不良	明褐色	明褐色	
第17図-43	5Ｔ	Ⅳ層	弥生	甕	－	－	7.0	(17.4)	ハケ	ナデ	ＡＣＥ	良	灰褐色	黄橙色	
第17図-44	5Ｔ	Ⅲ層	弥生	壺	－	－	－	(1.8)	？	？	ＡＢＣＤＥＨ	良	黄灰褐色	黄灰褐色	
第17図-45	5Ｔ	Ⅳ層	弥生	壺	(8.6)	－	－	(5.5)	ハケ	ナデ	ＡＤ	良	黄橙色	黄橙色	
第17図-46	5Ｔ	1号溝	弥生	壺	(17.8)	－	－	(3.8)	ナデ	ナデ	ＢＤＨ	良	明茶褐色	明茶褐色	
第17図-47	5Ｔ	1号溝	弥生	壺	－	－	－	(4.2)	ナデ	ハケ	ＡＢＣＤＥＨ	良	明褐色	明黄褐色	
第17図-48	5Ｔ	Ⅳ層	弥生	壺	－	－	(8.1)	(3.2)	ナデ	ナデ	ＡＢＧＨ	良	暗褐色	明灰褐色	
第17図-49	5Ｔ	Ⅳ層	弥生	壺	－	－	(6.8)	(3.4)	ハケ	ナデ	ＡＢＣＤＥＨ	良	茶褐色	明褐色	
第17図-50	5Ｔ	Ⅱ層	弥生	高坏	－	－	－	(4.6)	ナデ	ナデ	ＢＧＨ	良	明黄褐色	明黄褐色	
第17図-51	5Ｔ	Ⅴ層	弥生	高坏	－	－	(8.2)	(3.2)	ハケ	ハケ	ＡＢＣＤＨ	良	明黄褐色	明黄褐色	

第２表　出土土器観察表②

神図番号	区名	遺構名	種別	器種	法量				調整		胎土	焼成	色調		備考
					口径	胴部径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第17図-52	5T	Ⅴ層	弥生	器台	－	－	(11.6)	(3.3)	ハケ	ハケ	ABDE	良	赤褐色	灰褐色	
第20図-53	6T	Ⅳ層	弥生	壷	－	－	－	(4.0)	ナデ	ハケ	ABCDH	良	明白褐色	明白褐色	
第20図-54	6T	Ⅰ・Ⅱ層	弥生	壷	－	－	－	(4.4)	ハケ	ナデ	ACEH	良	黒褐色	黒褐色	
第20図-55	6T	Ⅳ層	弥生	壺	－	－	(4.4)	(2.3)	ナデ	ハケ	ABCDH	良	明黄褐色	明黄褐色	
第20図-56	6T	Ⅳ層	弥生	高坏	－	－	－	(8.5)	ハケ	ナデ	ABC	良	黄橙色	黄橙色	
第20図-57	6T	Ⅲ層	弥生	高坏	－	－	(14.3)	(2.4)	?	?	ABDH	良	明茶褐色	明茶褐色	
第20図-58	6T	Ⅳ層	弥生	器台	－	－	－	(5.3)	指押え	指押え	ABCDE	良	明橙褐色	灰褐色	
第20図-59	6T	Ⅳ層	弥生	壺	－	－	－	(5.5)	ハケ	ナデ	ABCDH	良	黒灰褐色	黒灰褐色	
第20図-60	6T	Ⅲ層	弥生	壺	－	－	－	(5.7)	ナデ	ナデ	ABCDEH	良	明茶褐色	明茶褐色	
第20図-61	6T	Ⅲ層	弥生	鉢	(18.2)	－	－	(11.2)	ハケ	ハケ	ABDEH	良	黒褐色	黒褐色	
第23図-62	表採	－	弥生	壷	(14.4)	－	－	(6.2)	ハケ	ハケ	ACE	良	黄橙色	黄橙色	
第23図-63	表採	－	弥生	壷	(16.8)	－	－	(8.4)	ハケ	ナデ	ACE	良	黄橙色	黄橙色	
第23図-64	表採	－	弥生	壷	(17.6)	－	－	(10.8)	ハケ	ケズリ	AC	良	灰黄色	灰黄色	
第23図-65	表採	－	弥生	壷	(25.2)	－	－	(3.2)	ハケ	ナデ	AC	良	黄橙色	黄橙色	
第23図-66	表採	－	弥生	壷	(24.0)	－	－	(21.9)	タタキ	ケズリ	ABC	良	黄橙色	黄橙色	
第23図-67	表採	－	弥生	壷	(28.8)	－	－	(18.4)	ナデ	ナデ	ABC	良	黄橙色	黄橙色	
第23図-68	表採	－	弥生	壷	－	(23.6)	－	(18.2)	タタキ	ケズリ	AE	良	黄橙色	黄橙色	
第23図-69	表採	－	弥生	壷	－	－	(6.9)	(5.1)	ハケ	ナデ	ACG	良	黄橙色	黄橙色	
第23図-70	表採	－	弥生	壷	－	－	(9.2)	(5.0)	ハケ	ナデ	ACD	良	黄橙色	黄橙色	
第23図-71	表採	－	弥生	壷	－	－	11.6	(14.5)	ハケ	ナデ	ACDE	良	黄橙色	灰黄褐色	
第24図-72	表採	－	弥生	壺	(8.6)	－	－	(5.5)	ハケ	ナデ	AD	良	黄橙色	黄橙色	
第24図-73	表採	－	弥生	壺	－	(21.6)	－	(7.5)	ハケ	ハケ	ACE	良	黄橙色	黄橙色	
第24図-74	表採	－	弥生	壺	－	－	－	(8.7)	ハケ	ハケ	ABCEG	精	黄橙色	黄橙色	
第24図-75	表採	－	弥生	壺	－	－	8.0	(13.5)	ナデ	ナデ	ABCDE	良	黄橙色	黄橙色	
第24図-76	表採	－	弥生	高坏	－	－	(14.0)	(12.8)	ハケ	ハケ	AD	良	黄橙色	黄橙色	
第24図-77	表採	－	弥生	高坏	－	－	－	(5.5)	ケズリ	ハケ	ACE	良	黄橙色	黄橙色	
第24図-78	表採	－	弥生	高坏	－	－	(15.2)	(6.1)	ハケ	ハケ	ACE	良	黄橙色	黄橙色	
第24図-79	表採	－	弥生	壺	(9.7)	－	－	(5.3)	ハケ	ナデ	AC	良	黄橙色	橙色	
第24図-80	表採	－	弥生	壺	(21.2)	－	－	(6.5)	ハケ	ナデ	ACD	良	黄橙色	黄橙色	
第24図-81	表採	－	弥生	器台	11.6	－	－	(15.6)	ナデ	ナデ	ABC	精	黄橙色	黄橙色	
第24図-82	表採	－	弥生	壷	－	－	(10.0)	(33.6)	ハケ	ハケ	ABCDE	良	黄橙色	黄橙色	壺棺

胎土：A角閃石　B石英　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　H砂粒

第３表　出土石製品・鉄器・石器・土製品観察表

神図番号	区名	遺構名	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第13図-1	3T	Ⅲ層	石錘転用品	滑石	－	－	－	－	器高(9.5)、穿孔5穴
第18図-1	5T	Ⅳ・Ⅴ層	鉄鏃	－	9.4	1.6	0.4	13.7	
第18図-2	5T	1号溝	鉄鏃	－	12.1	0.7	0.4	39.9	
第21図-1	1T	Ⅴ層	二次加工剥片	安山岩	(3.4)	(3.0)	(1.0)	(9.4)	
第21図-2	5T	1号溝	砥石	砂岩	8.0	3.1	4.0	43.6	
第21図-3	5T	Ⅲ層	石庖丁	結晶片岩製	(7.4)	(4.9)	(0.4)	(27.9)	欠損品
第21図-4	4T	一括	石庖丁	輝緑凝灰岩	(6.9)	(5.0)	(0.5)	(23.0)	欠損品
第21図-5	5T	Ⅳ層	砥石	砂岩	(10.7)	(5.5)	(1.9)	(160.9)	欠損品
第22図-1	表採	－	土錘	－	4.9	1.1	－	6.4	
第22図-2	1T	一括	土錘	－	(2.9)	(1.1)	－	(3.7)	欠損品

調査区の空中写真（北から）

写真図版２

遺跡近景写真（南から）

調査区近景写真（東から）

１トレンチ遺物出土状況（Ⅲ層）

１トレンチ遺物出土状況（Ⅲ層）

１トレンチ遺物出土状況（Ⅲ層下～Ⅳ層上）

１トレンチ遺物出土状況（Ⅲ層下～Ⅳ層上）

１トレンチ遺物出土状況（Ⅳ層）

１トレンチ土層写真

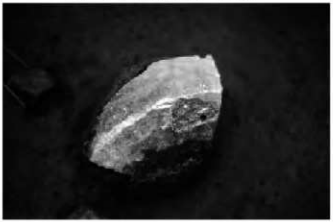
２トレンチ遺物出土状況（Ⅳ層）

２トレンチ遺物出土状況（Ⅳ層）

写真図版４

２トレンチ遺物出土状況（Ⅳ層）

３トレンチ遺物出土状況（Ⅳ層）



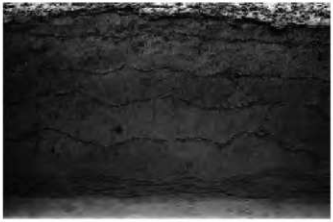
３トレンチ出土の石製品

３トレンチの基本土層

４トレンチ遺物出土状況（Ⅳ層）

４トレンチ遺物出土状況（Ⅳ層）

４トレンチ遺物出土状況（Ⅳ層）



４トレンチの土層

５トレンチ遺物出土状況（Ⅳ～Ⅴ層）

５トレンチ１号溝

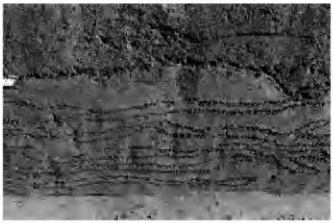
５トレンチの土層

６トレンチ遺物出土状況（Ⅳ層）

６トレンチ遺物出土状況（Ⅳ層）

６トレンチ遺物出土状況（Ⅴ層）

６トレンチの焼土（左）・炭（右）



６トレンチの土層

写真図版 6

1

2

3

4

6

7

8

10

16

17

21

30

33

37

43

56

60

61

65

66

68

69

70

73

74

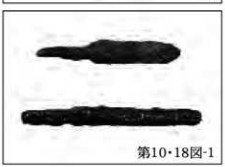
75

76

77

78

79


第10・18図-1

第13図-1

第13図-2

第13図-3

第3図-4

第22図-1・2

報 告 書 抄 録

ふ り が な	とくぜいせき　に
書　　名	徳瀬遺跡Ⅱ
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	71
編 著 者 名	土居和幸
編 集 機 関	日田市教育委員会文化財保護課
所　在　地	〒877-0077　日田市南友田町516-1
発 行 機 関	日田市教育委員会
所　在　地	〒877-8601　日田市田島2－6－1
発 行 年 月 日	2006年３月31日（平成18年３月31日）

所収遺跡名	所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
徳瀬遺跡	大分県日田市大字友田字徳瀬284-1	44204-6	651101	33°19′12″	130°54′42″	19841203～19850305	85㎡	農作物作付け

所収遺跡名	種　別	主な時代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特記事項
徳瀬遺跡	集落跡	縄文時代		縄文土器	
		弥生時代	竪穴住居跡？ 1軒、溝１条	弥生土器、石器、鉄器	
		古墳時代		土師器	
		中　　世		青磁碗・土師器・土錘・石製品（石鍋転用品）	

徳　瀬　遺　跡　Ⅱ

日田市埋蔵文化財調査報告書第71集

2006年３月31日

編　集　日田市教育委員会文化財保護課
877-0077　大分県日田市南友田町516-1

発　行　日田市教育委員会
877-8601　大分県日田市田島2-6-1

印　刷　三　浦　印　刷　所
大分県日田市田島本町7-1